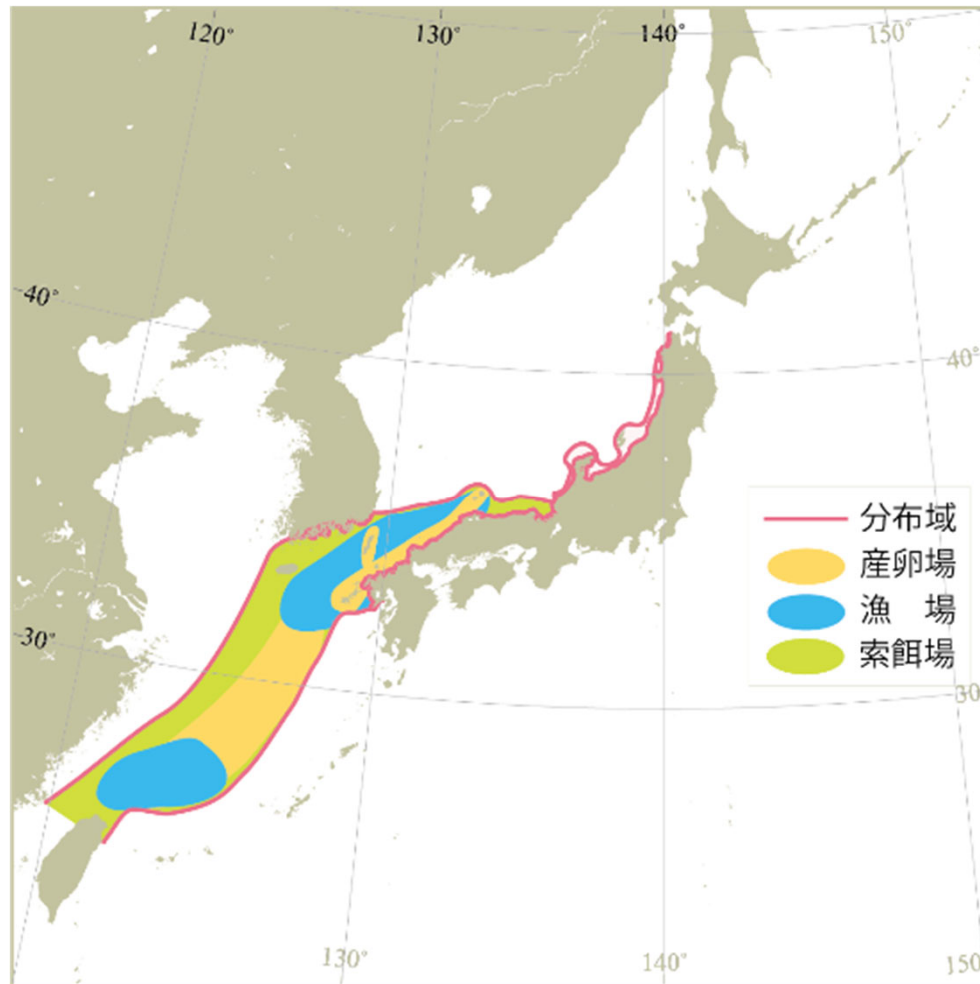




ケンサキイカ
日本海・東シナ海系群
令和7年度資源評価結果

生物学的特性

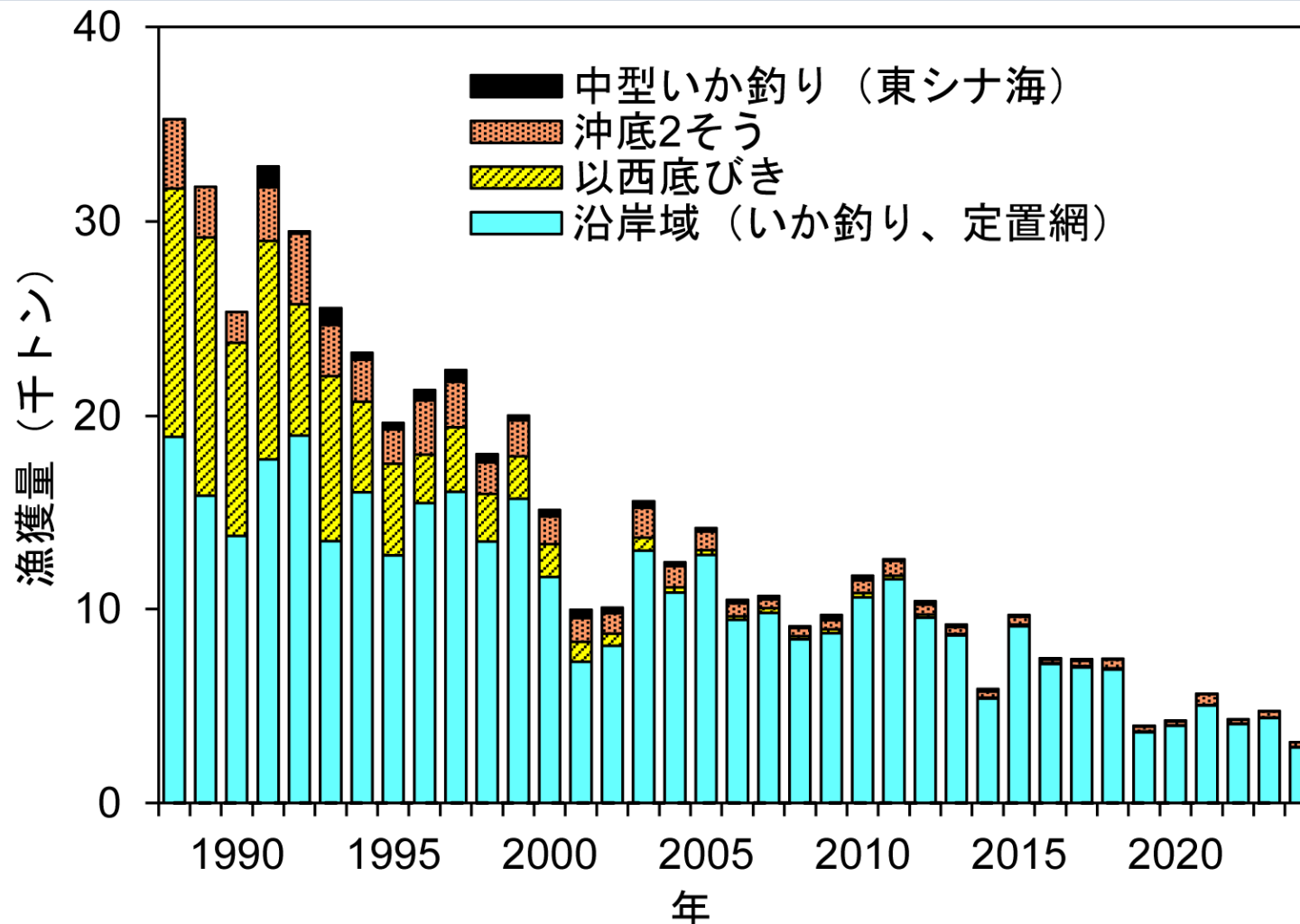


生物学的特性

- 寿命：1年
- 成熟開始年齢：5ヶ月（一部）、8ヶ月（ほぼ50%）、10ヶ月（100%）
- 産卵期・産卵場：周年（盛期は冬以外）、主産卵場は東シナ海南部
- 食性：小型魚類、甲殻類、軟体類
- 捕食者：魚類

- 東シナ海～日本海本州沿岸の陸棚域に広く分布
- 海域、季節、性別による成長差が大きい
- 我が国の漁場に来遊する資源の主体は東シナ海南部起源と推定されている
- 沿岸域では主に、いか釣り漁業によって漁獲されている

漁獲の動向

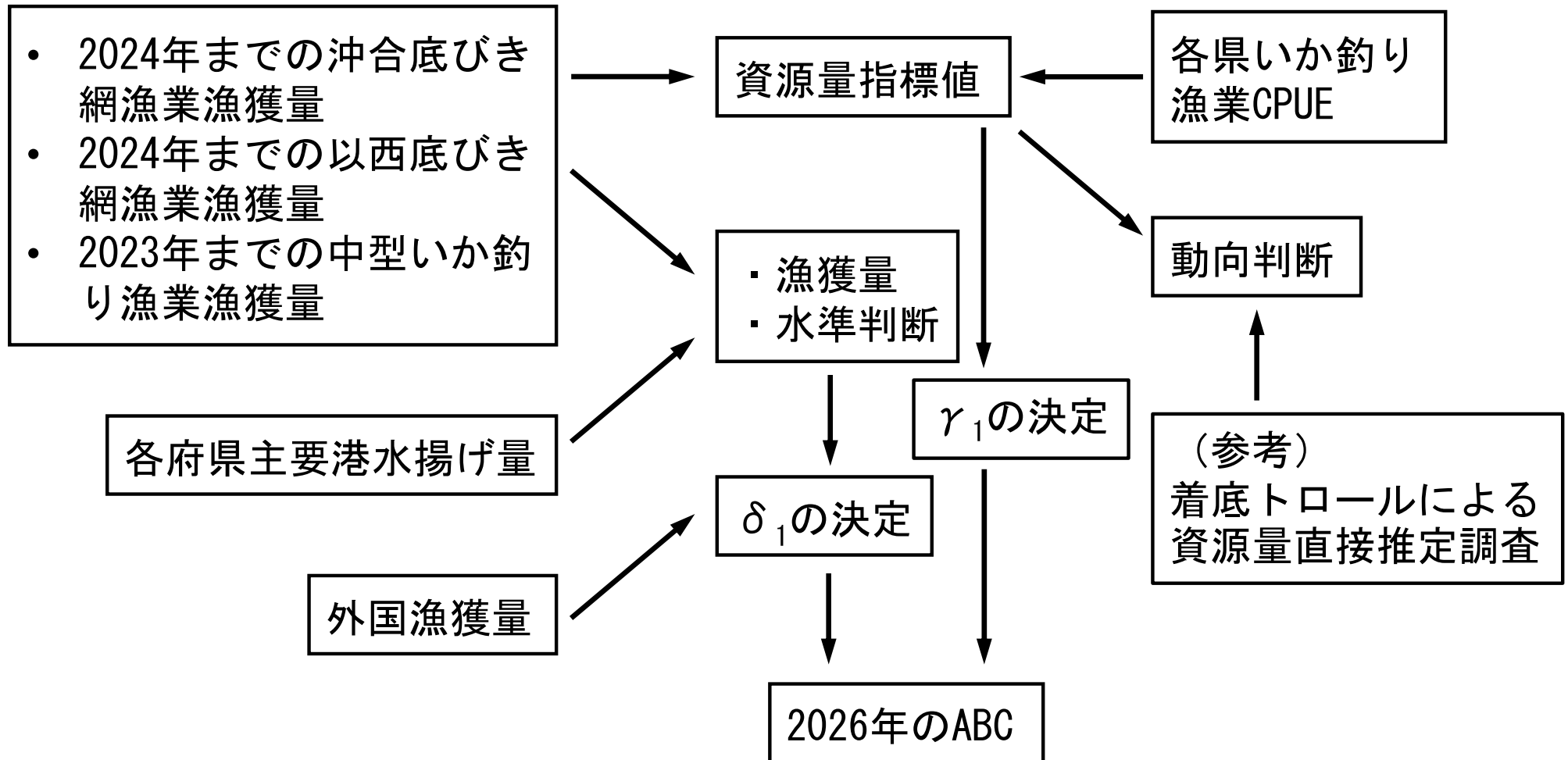


- 1988～2000年にかけて漁獲量が大きく減少
- 2001年以降は1万トン前後であったが、2019年に大きく減少
- 2024年は過去最低の漁獲量(3,142トン)

※沖底2そう：2そうびき沖合底びき網漁業

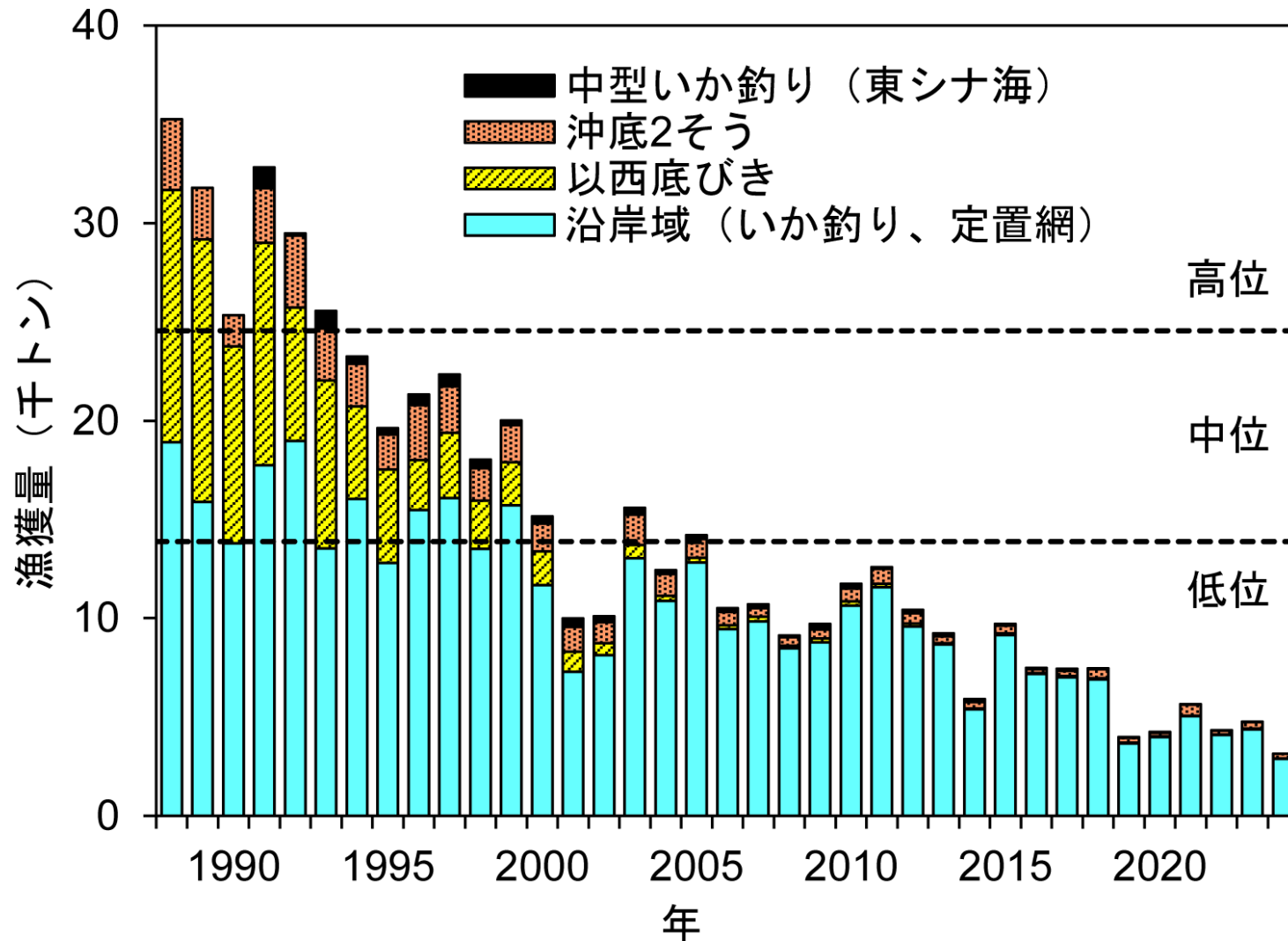
※以西底びき：以西底びき網漁業

資源評価の流れ



※ ABCは漁業法改正前の考え方に基づく基本規則を適用した値

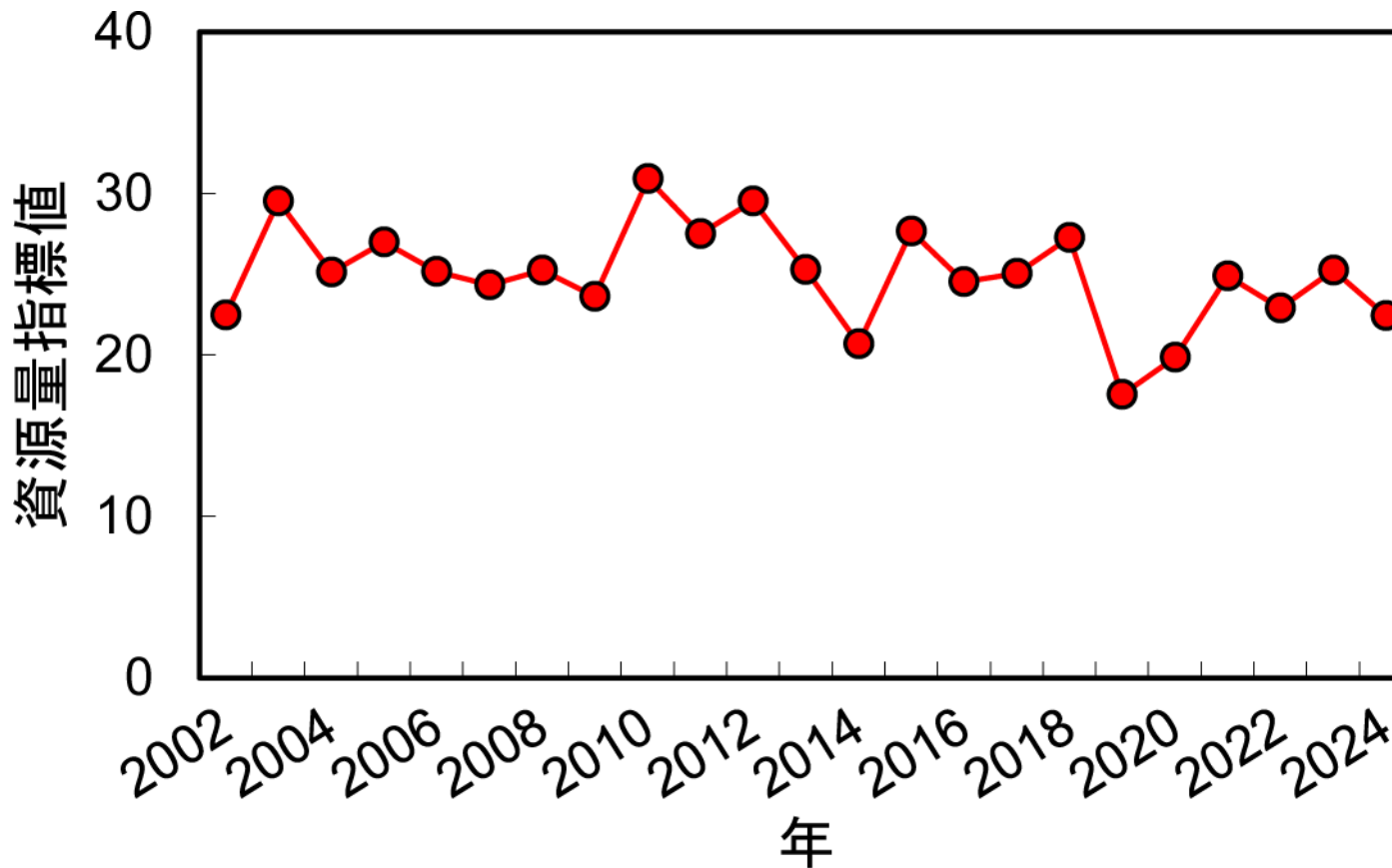
資源の動向①



※水準区分 低位／中位：漁獲量13,848トン 中位／高位：漁獲量24,553トン
(1988年以降の総漁獲量の最大値と最小値の範囲を3等分して算出)

- 資源水準：2024年の漁獲量から水準は「低位」

資源の動向②



- 2002～2018年は横ばいで推移したが、2019年に大きく減少
- 2020年以降は増加したが、2024年は前年よりやや減少
- 直近5年間（2020～2024年）の推移から動向は「横ばい」

※沿岸域におけるいか釣り、沖底2そうおよび以西底びきの単位努力量あたり漁獲量（CPUE）から算定した来遊量指数を資源量指標値として、資源動向の判断に用いた

資源評価のまとめ

- ケンサキイカ日本海・東シナ海系群の資源水準は「低位」、動向は「横ばい」
- 漁獲量および資源量指標値に基づいて資源状態を判断

2026年ABC

管理基準	Target/Limit	2026年ABC (千トン)	漁獲割合 (%)	F値（現状のF値 からの増減%）
1.0・Ct・0.99	Target	2.5	—	—
	Limit	3.1	—	—

- 漁業法改正前の考え方に基づく基本規則2-1)により、 $ABC\ limit = \delta_1 \cdot Ct \cdot \gamma_1$ で計算
- δ_1 : 1.0（低位水準だが、我が国の努力量が資源全体に及ぼす影響が小さいことを考慮）
- Ct: 2024年の漁獲量
- γ_1 : 0.99（直近3年間（2022～2024年）の資源量指標値の傾きと平均値より算出）